
サイコ・ジャーナリスト

子鉄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サイコ・ジャーナリスト

【Zコード】

Z9726D

【作者名】

子鉄

【あらすじ】

一人のジャーナリストが、失敗を繰り返しながらも、懸命に生き抜く様を描きました。

私はジャーナリズムとこの「もの」を「」の職業として、日々日本中を飛び回っていた。

コラムを書いたり、講演をしたり、対談をしたり。様々なオファーが引つ切り無しに舞い込んできただが、その中でも一番、熱く弁舌を振るつたのがテレビの仕事であろう。

「それは話がずれてると思いますが」

「え? ズレてる? なつ、なにがですかっ!」

「いえ、話の論点がですね・・・・」

「あ、ああそっちはですか。失礼しました」

「激しく動く政局をどうお考えですか?」

「は、え? ハゲがなんですって?」

「いや、激しくです。激しく」

「ああ、そっちはですか」

「しかし、山下さん、今回の選挙は少々気が抜けてしまつたんじやないですか?」

「はあ? 毛が抜けた? ハゲてる? 私が? なんですか? 私が頭に何

か乗せてるとでも言つたですか。あはっ、あはははーつ。あば・あ
ば・ばばばばー」

「山下さん? やつ、山下さん? ・・・・えー、途中で中継が途絶えました事をお詫びいたします。さて、次のニュース。向田町動物園の人気者アライグマの風太ちゃんが立ちました。ここで一句、我輩も夜はベッドで風太ちゃん。では、今夜はこの辺で」

私は全国およそ1200万人の視聴者の前で醜態を晒してしまったのである。

心のある人間なら、とてもじゃないが生きてはいけないだろう。帰り道、車を運転士ながらそんな事を考えていた。

ふと前方を見ると、赤いサイレンが激しく光っているのが見える。赤く光る棒に誘導され、私は静かに愛車を路肩に止めた。

「はい、免許証だしてね」

「は、何がですか?」

「日本語わかりますか? 免許証だせちゅーとんにゃわ」

「ふつ、ふざけるのはやめてくださいー免許は先月取り消しになつてます。

今はきちんとした自己責任で運転してます、はい、それは本当です。はいっー!」

私はその場に直立不動になり、公儀に一礼した。自らの礼儀正しさに、清々しい気持ちになった。

「は？貴様、無免許か。

とりあえず車から降りろ。この馬鹿たれがつ

「何なんですかっ、気分が悪いです」

「ああ、ちょっと言いすぎたかな」

「いえ、飲みすぎて気持ちが悪いので、そろそろ失礼します」

「ん、飲んじゃった？」

「はー、ホッピーです、はー」

失意のどん底にあつた私に降りかかる災難は、これでもかとどじまる事を知らないらしい。

並大抵の人間なら泡を吹いて白目を剥いているところだらう。
しかし、私のインテリジョンスはそんなにやわなものではなかつた。

「ちょっと来てもらおうか」

「ふつ」

「いいから来い」

「ふふふ」

「」こいつちゅーてんだわつ

「ふはは、あーはつはつはつ」

「貴様つ、何がおかしいつ！」

「あ、すいません、パンティの事考えてました。」

私はそのまま警察に連行され、取り調べを受けることになった。
結局、精神鑑定を受けた結果、神経衰弱といふことが認められ、2
ヵ月後に精神病院に移送されることになる。
それから無茶苦茶な日々だ。

一日に二回、食後に無理やり薬を飲まれ、歯向かうと怒られた。
連帯責任などという言葉の元に、一人がミスをすると全員が一同に
集められ往復ビンタを受けた時もある。
酷い時などは、廊下を走つていただけでバケツを持って立たされた
りもした。

この際だからそのえげつない体罰をここに書き記しておきたいと思
う。

私の身に何があった時は、このノートを持つて警察に行つて頂きた
い。

3／1・・・302号室の吉田さんの頭をぶつただけで、グランド
を三周走らされる。

3／2・・・田中さんとじやれあいながら廊下を走つていたら、お
尻をつねられる。

3／2・・・私の頭を叩いた田中さんに「ばか」と言つたら定規で
お尻を叩かれる。

3／3・・・おしつこに行きたいと言つと、「何故休憩時間に行か
なかつたんだと」、辱めをうける。しかも、憧れの伸美チャンの前

でだ。

ここにざつとあげただけでも、ハチャメチャで、がんじがらめな規則はとてもじゃないが我々を人間扱いしているとは言えないである。

う。

そして、私はいつしか自分自身というものを見失っていた。あの時は自分でも何をしているのか分かつていなかつたのであるう。

お弁当にふりかけをかけるのを忘れたり、タイムカードを押し忘れたり、体操着に名札を付けるのをお母さんに頼むのを忘れたりと、それはもう滅茶苦茶であつた。

そんな時、事件は起こつたのだ。

私が命より大事にしていた3色ボールペンが無くなつたのだ。先つちよに子熊の絵が描いてあるやつである。

「おかしいではないですか？」

私は興奮気味に感情をぶちまけた。

「なんですか、こちらは泥棒養成専門学校ですか？あまりにもおかしそぎて神経がやられそうです。んふつ、んふつ」

憤慨した私は着のみ着のまま外へ飛び出した。

それから日本全国を周り、病院のあるべき姿、そして我々がつけた虐待の数々を訴た。

そして、一人一人を大事にする姿勢、相手への感謝の気持ち、互いに尊重しあう心などを説いて周る。

やがて一人、一人と支持者が集まり、その数は2万人に達した。

満を持して発表した著作『駆け抜けろ病院』が大ベストセラーになり、一躍、時の人になったのである。

当然の如くテレビやラジオに引っ張りだこになった。人にに対する無償の愛、命を慈しむ心、ありがとうの精神がみんなに認められた結果である。

「先生、次の収録がBスタジオで一時からです」

「うーん、面倒臭いから、君がやつといて

「いや、しかし・・・・・・」

「あ？ やんのか？」 こっちは芥山賞作家だぞ。」

「え、いえ・・・・・・」

「いつでもやつたんじ、こっちは銀行に2千万円あるんだわ、ああ

話の分からぬマネージャーに対し、結局こちらが折れる形でテレビの出演を承諾した。

面倒だつたがこれもお金の為だ、仕方が無い。
金、金、金、世の中、金が全てですか？
違うと信じたい。

そんな溜め息混じりの気持ちの中、収録は始まった。

「えー、今日のゲストは今乗りに乗りつて山下次郎さんです」

「え?乗つてる?」

「山下さん、この激しい大声援をお聞き下さい」

「え?ハゲが何ですか?何を頭に乗せつて?」

「聞こえますか?山下さん」

「激しくはげてるって?あばつ、あばば、あばばーつがばひや
ガ2.ゴ1. @#^>-Kfh0.*%< (%&

「ヨクセカツ、ヨクセカツー?」

。。。

「えー、見苦しい映像が流れましたことをお詫びいたします。次の
コースです・・・・・」

私はまたしても全国民に向けて、恥ずかしい姿を発信してしまった。
今はまた丘の上の病院で田中さん達とのんびり暮らしてい。

あんな物を頭に乗せていなければ、私の人生はもう少し楽にならなかったであろう。

熟考を重ねた結果、現在の私は總てををさらけ出して生きている。
恥ずかしいことも、汚いことも、嫌なことも、何もかもだ。
それが結局、一人の人間としてまっすぐに生きる道だつたのだ。
一步一歩、このまっすぐで白い道を歩んでいこう。

- - - パーつ - -

「そこ」の裸の君つ、おとなじへりひきに来なさい。」

「あは、あははははははーつ」

(後書き)

"J感想をお待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9726d/>

サイコ・ジャーナリスト

2010年11月12日21時10分発行